平成17年度第１回秋田市行政改革推進市民委員会議事録

日時：平成17年８月９日（火）
時間：10：00～11：50
会場：会議応接室

１　開　会

２　助役あいさつ

３　委員自己紹介

４　市担当職員紹介

５　議　事

①　次期大綱作成方針およびスケジュールについて

事務局：資料「秋田市行政改革推進市民委員会設置要綱」
資料「次期秋田市行政改革大綱策定に係る市民委員会進行手順（案）」
により説明

②　国の集中改革プランについて

事務局：資料「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」
により説明

③　秋田市の財政について

事務局：資料「秋田市の財政状況」
により説明

④　委員会のテーマについて

（議事内容）

御牧会長：ここまでの事務局の説明に対し、質問、意見等はありませんでしょうか？

島澤委員：資料「秋田市の財政状況」の数値について、旧秋田市分なのか、あるいは旧両町の分も合算したものなのか？

財政部次長：予算については、平成16年度は、旧秋田市分のみのデータである。また、平成17年度当初予算は、新市全体の数値を記載したものである。

平成16年度決算の一部については、旧両町の分を含んだ数値となっている。

財政部長：補足すると、平成17年度当初予算は、旧両町が中核市へ移行したことに伴う県からの移譲事務に係る経費、例えば生活保護費や保育所運営費などの措置費の上乗せ分を含む数値となっているものである。

阿部委員：個人的には、３セクや民間に委託している施設については、現場に行って、そこで働く人達と意見交換する必要があるものと考えているので、参考としていただきたい。この市民委員会の任期は半年程度であるが、十分な検討を行うには期間が短いと思う。

それから、次回市民委員会には、是非出席したいので開催予定を教えていただきたい。

総務部長：先ず、本市民委員会の期間については、国から来年度当初までに集中改革プランを公表するよう通知されているため、来年３月までに次期大綱を策定しなければならず、秋田市だけが公表しない訳にはいかないので、事情をお察し願いたい。次に、３セク等との意見交換については、スケジュール的に厳しいため、必要に応じて資料提供させていただきたい。それから、次回の市民委員会のスケジュールは未定であり、なるべく全員参加できるように会議終了時までに調整して参りたい。

阿部委員：了解した。机上では、本当の行政改革はできないものであること、また、大綱策定後の処理も必要であることなどから、先ほどの意見は参考として聞いてもらいたかったものである。

総務部長：今後の方向性を定める大綱であるので、大綱を策定する際に、委員会としての検討を行っていくものである。また、個々の３セク等については、大綱策定後に行政が改革を進めていくものである。

門間委員：資料等を読むと、今回の行政改革大綱の策定は急ぐべきものであると感じたので、全速力で進めるべきと考える。会長のおっしゃるとおり、議論を行うに当たっては、ポジティブに考え、市民としての誇りを持ちながら携わって参りたい。

御牧会長：言い方が適切でないかもしれないが、経営感覚を持ち、「秋田市株式会社」としてのＣＳ（顧客満足：customer　satisfaction）やＥＳ（従業員満足：employee　satisfaction）を念頭に置きながら会議を進めて参りたい。

谷口委員：市の職員の給料は、東北でも高いと聞いている。また、民間委託を進めると言っても、委託先の公社等に市の職員が居るようだ。市職員の人数や給料の改革、民間委託の推進状況について教えてもらいたい。

総務部長：人数や給料については、他の中核市と比較できるような資料をお示ししたいと思うがいかがか？

また、民間委託関係については、従来は公の施設の管理運営は公社や３セクにしか委託することが出来なかったが、指定管理者制度が創設されてからは、民間企業等でも行うことが出来るようになった。現在では、３セク等に市から派遣した職員はほとんどおらず、その団体のプロパーが中心となっている。

公社の一覧表を作成し、市職員の関わりについて資料を作成しお示ししたい。

梅森委員：予算の中で、使用料・手数料のうち、収入が見込めそうなのはどの部分か？公共施設の利用収入とその施設の運営コストを比較して現在徴収している使用料・手数料が適正かどうか検証していただきたい。

財政部長：例えば、ある施設を維持管理するのに1,000円かかっていて、利用者から300円徴収すると、残りの700円は税金からの持ち出しとなる。このことは、逆に言えば、施設を利用しない人にとっては、利用者のために700円も自分が納めた税金が使われるということになり、そのような料金体制が、果たして適切かどうかといった問題になるものである。このことについては、整理が必要と考えている。

堀川委員：昨今、行政や政府などは、とかく経営だとか効率だとか言っているが、行政サービスの提供は、赤字で当たり前だと思っている。民間企業では赤字は大変なことであるが、行政の場合、経営や効率というだけで担うことの出来ないことをやるのが行政であって、必ずしも赤字は悪いことではない。

例えば、職員数を減らすことにより、どのようなサービスが提供できなくなるのか、説明していただければ分かりやすいと思う。人員削減ありきでなく、諸外国と比べて人口に対する公務員の比率がどうなのか、説明することが必要である。

細川委員：市の歳入・歳出に関する資料をいただいたが、今の堀川委員のお話にもあったように、歳入が減るので歳出も減らすという考え方は、一部短絡的に思える節がある。先ほどの説明だけでは、判断材料が乏しい。課題提供をお願いしたい。

進藤委員：行政改革と財政改革は表裏一体である。秋田市は財政状況が悪い都市の中でもまだ良い方なのかもしれない。財政に関する部分はちょっと置いておいて、行政の方から見ていきたいと思う。財政改革ありきでなく、行政改革について考えていきたい。市民にとって、どのようなサービスが必要でどのようなサービスが必要でないのか、また、どのようなサービスをより充実させどのようなサービスをカットしていくのか、こうしたことに焦点を当てながら議論していきたい。

本市民委員会の設置要綱第３条に記載されているとおり、本委員会の所掌事項は、行政改革大綱の策定のため「受益と負担」などの特定のテーマに提言を行うことなどであり、こうしたことに焦点を絞って検討を行って行くべきである。今回は、この要綱の目的に添うよう、市民の視点で意見を述べ論議していきたい。

嶋田委員：市は、独自の政策を掲げながら行政を遂行していくものと思われるが、その政策についてもう少し資料提供していただきたい。

私が行った大学の改革では、教職員の定年年齢を引き下げたが、これによって組織が停滞してしまい暗くなることを経験した。

公務員は崇高な任務を持ったやりがいのある仕事であると考えている。改革

を通じてその理念を幹部職員が部下の職員に伝える方向で行ってもらいたい。たった５回の委員会では、全て解決出来る訳ではないので、この会議はビジョン、理念、方向性をはっきりさせて議論していくべきである。

総務部長：公共サービスを担う行政の仕事は、民間企業が商売とするにはやりづらいものであり、赤字になるものである。ただ、この赤字を負担する納税者が納得できるかが重要である。サービスの提供や施設の維持管理に係る経費と利用料金について、また、民間委託について、市民の税金を活かしていくために、皆様のお知恵をいただきたいと考えている。

企画調整部長：企画調整部は総合計画を立てるセクションである。行政改革はポジティブになり得ない側面があるが、今度策定する計画には皆様のご意見も反映させたいと考えている。特に、「受益と負担」は、重要なテーマであるので、お話しをいただきたいと考えている。

御牧会長：本市民委員会では行政改革の大きな話を決め、あとはそれぞれ事業を所管する部局で進めていくものであり、細かいことまで議論を行うものではない。

財政部長：改革においては、ただ単に予算を削るということではなく、持続可能な財政について、また、住民と共生できる社会の仕組みを作っていきたいと考えている。

御牧会長：ここで、委員会のテーマについて絞り込みを行いたいと思う。本市民委員会のテーマは、一つ目の「受益と負担について」と二つ目の「市民と行政の役割分担について」でよろしいか？

細川委員：これから策定する次期行政改革大綱でも数値目標を明らかにするのか？

総務部長：できるだけ数値を出していきたい。

御牧会長：会議資料は会議の２～３日前までにいただければ、事前に読むことができるので、お願いしたい。

進藤委員：行政は“ゆりかごから墓場まで”というように奥が深く、短期間で全体を論議することは難しいだろう。したがって、本委員会ではテーマを絞り込むべきで、１の「受益と負担について」と２の「市民と行政の役割分担について」を中心としてよいと思う。確かに「人事」も「公社・３セク」の問題も大切であるが、限られた時間の中で論議するにはテーマを絞り込むべきと考える。

御牧会長：テーマを絞り込みたい。

嶋田委員：事務局から提案されたテーマは、より整理されており、２回目となる次回の委員会では、１、２をテーマとして審議を行っていけば良い。

谷口委員：テーマについては、これらでよいが、２については言い方がキツイ感じがするので例えば「個と公の調和」とか文言を見直せないか？参考意見として聞いていただきたい。

細川委員：資料は事前にいただければチェックして会議に臨む。

門間委員：私が公募委員に応募したときの作文のテーマが①の「受益と負担について」であったので、このとおり審議を行ってもらいたい。

阿部委員：テーマについてはこれでよいと思う。ただ、私が言いたいのは、天下りをやめて若い人を雇用することである。退職者の就職先の状況と臨時職員等の雇用の状況を知りたいので資料を提供して欲しい。先ほどの発言は、一つの意見として提案させてもらったものである。市や県は無駄が多い。市民と対話する態度やバリアフリーなどを重視して市民に優しく分かりやすい市政運営を行ってもらいたい。

総務部長：確認させていただくが、一つ目の退職者の再雇用の状況には、人数とその人件費が分かるようなものを、二つ目の正職員以外の職員の人数とその人件費が確認できるような資料ということでよろしいか？

阿部委員：それで、お願いしたい。

御牧会長：県内でも話題となった大仙市は大きな合併を行い多くの議員が在任しているが、それと関連して秋田市の議員数が諸外国と比べて多いか少ないか比較できるような資料を示していただきたい。

島澤委員：公共サービスの提供に当たっての課題を整理するため財政資料に関し期間を長くしてもらいたい。また、建物のランニングコスト、民間委託に係る、物件費について時系列的な資料を見せていただきたい。

堀川委員：秋田市の財政状況の説明の中で、歳出決算額の推移に関する説明があり、扶助費が伸びているということであったが、扶助費の増加の内容が分かる資料があれば示していただきたい。

総務部長：子育て支援などあるいは被保護世帯の推移の資料を用意したい。

(2)　その他

御牧会長：次回の会議は、賛成多数で日程を決めたい。後ほど事務局で調整していただきたい。

3　閉会